

七部集

七部集
卷一 卷二 卷三 卷四 卷五 卷六 卷七
卷一 卷二 卷三 卷四 卷五 卷六 卷七
坤

共二



曉其堂註

秘社傳説七部集卷之五

猿蓑とまき

○やまの月と刷ぬ・初と水

去来

空の鳥雲如し元はこきやま。相ノカイ川ノ名ヲ^{自ラ}祓ノ字ヲ始ヤ

但モノ字ノテハ三人情ノ余情ニシテモ風情寂然ノ意味

ひと吹風の木の葉もさるりする

云

おぼの付て一四も来りまは。風情ニお用シ求メセキ。梢ヲエハル風

情見ルカ如し但風もお對ニシテ已自ッ伏ス自北ノ情ニ似ルハ

對ニテ一音ノ高、如クハん好

收川の影をめぐりて

凡此

おニカヲカミテ人情ヲ附クカ^ヲ又ルトシニモキヤク。オノイト

トテナリ。但みぬ夕えんし^ハオノ人情カヨシ^ハ夕夕人情ナラハ



かえりかきよこし一ひの去難き用有^レ旅り根^レり

程と懼を心條法^レの^レり 史邦

去難^キ用有^レ見^テ之^レ叙ナリ隱居^ニ陰^ニ有^レ程^ニ實有^レト

安^シヨリモ防^シリ作^ナラニカ

予^ニふら^ニテ^レホ^クモ^クテ^レシ^ニか^クる^ニ青^ノ月 為

程^ニ遠^{ヨリ}大^破ノ^レお^レ宿^ニ冬^ノあ^ニ山^ニち^トて^レ見^ラル^レ此^ノ方^ノの^レ月^ノ白^ト云^フ

人^ノも^レ是^レの^レあ^ノ利^ホ 未

トリナ^ニテ^レ兼^好リ^レ詞^ニ栗^極也[、]棋^子、垣^根、タル^ヲマ^思

出^ルあ^クる^ニ是^レも^レ画^おく^レ 秋^をま^て 邦

言^ハウ^キナ^ト、^學、^ハ利^ホト^テ画^をサ^シラ^附リ^但人^ニモ^レ是^レハ^ト云^フ

秋^クレ^テハ^ヒキ^キ

も^今是^レ世^ニ衣^ニテ^ニウ^カラ^ミシ^必ズ^ス、^利ホ^ノウ[、]附^ル心^ニ但^シカ^シト^ハ面^白ト^云フ^コト^ハ心^ヨキ^情ニ^ハ多^クシ^リ

何^レも^レは^レ云^フの^レう^ちハ^静ッ^とあ^り 未

白^ト云^フコ^トハ^心ヨ^キ情^ニハ^多ク^シリ

あ^タラ^作ト^シテ^モ用^ラ附^テ止^観リ^法、^内情[、]作^シテ^レ但^シ也

幾^ク道^ハも^レ妙^シ

里^ノ入^レえ^初て^午の^貝吹 為

あ^タラ^比叙^ハ横^川ナ^トラ^下ス^ル作^トシ^テ又^は世[、]物^多ク^身ニ^カシ^キ

キ^ル程^ナリ

ほ^んと^しく^も去^キ米^の補^之の^名こ^るく 能

里^ニ初^テト^云フ^ハ初^メル^作有^トシ^テ而^凌、^貫ス^ル底^ト為^リ

え^んと^しト^ル程^ヲシ^タタル^クハ^ウル^カキ^心シ

美^ノ密^の名^のも^もく^とも^も 邦

ニタルクニヨリ控免代為ニ古池アリ風情附タリ草花名トハ葉フ

るし

吸あハスおまき流一すいせんド 存

蓬又ノモニナニおこタル吸あし

ニも何ヤリけ及く一なる 来

儂言ニ忽却テ運心飛テ先トキヨリ見せニカニルナリ

以ま方七与屋同のをとこ居ありそ

モ人ニテ与屋同田カ下物ノニカカフニシ与屋同シ居人ニテ

久保通ノ入視し

さ一木つそくする月の懐夜 飛

モ下モ田カサニタル木トミテ居ナリトモツキタルトトモモ懐夜ト高

モモアヒラヒテカフサシキツキタルトモ心許ナルトモ心ニ懐夜トナリ

昔はあゝいそあよそあゝよめ 存

サシキツキタルトモ昔あよそノ心育ハ素ニ元トモヨリ所モ意

今秋ナリ懐夜トモニリタル治め昔はナカレトハトモ

ひもあろしハこの腹之 来

女也手入ナリトモニサマシタル伴ヲ附タリカキテハ初也付

いち此ハ二口のその七喰はてら五 飛

招、後ヲ招者ニテモ下箴サマシタリニタカフニシ

ささえハあをそいこのお月 邦

道徳ハ得る人ト居テ百モリト心掛テ飯ヲ食ハフトコナリ

さる、さる、懐夜、懸アリ

やいとしハあろハハわらういあいのそ 来

まも、十物ヲ附テカハ、城阿ノ控免トキカセメリ

後世にシテは丑セツルイニ能シ人カヲ能ク造ル人ヲ月夜ノニコル夕
ルニ能ク

そ侍不^レころひ^レあ^レも^レ外^レあ^レし 東

余亦集^レ附^レニ^レ意^レハ^レ以^レ右^レノ^レ口^レ曲^レ予^レ以^レカ^レニ^レニ^レモ^レ折^レ方^レ六^レナ^レぬ

尚^レ通^レ式^レヲ^レ味^レ

い^レう^レて^レ其^レ四^レノ^レ人^レヲ^レぬ^レま^レ徒^レ 北

外^レ及^レ用^レシ^レ云^レこと^レす^レ徒^レ其^レ云^レク^レヲ^レ付^レキ^レ是^レヲ^レ無^レ抑^レク^レニ^レニ^レ

所^レ所^レ不^レ清^レ

そ^レう^レ有^レし^レ不^レ形^レ白^レく^レ居^レて^レハ^レキ^レヤ^レア^レク 北

お^レう^レも^レ大^レ作^レヨ^レリ^レ存^レメ^レ上^レヲ^レ必^レズ^レト^レテ^レク^レラ^レ居^レ玉^レハ^レリ^レ其^レ意^レ合^レ又^レ

説^レヨ^レリ^レ其^レ破^レハ^レヒ^レキ^レキ^レ

余^レ嫌^レし^レく^レ撰^レ集^レノ^レ州^レ坊^レ 東

ウ 頼^レ西^レノ^レを^レト^レト^レ州^レ坊^レタ^レリ

さ^レゆ^レく^レ不^レ形^レく^レも^レも^レあ^レと^レして 北

説^レ集^レノ^レ意^レ部^レニ^レ違^レハ^レり^レ急^レ不^レ直^レ意^レ終^レ年^レ急^レ終^レ急^レ後^レ

説^レヲ^レ採^レル^レと^レハ^レモ^レヒ^レキ^レヲ^レ州^レ坊^レタ^レリ

後^レ世^レノ^レ口^レ曲^レハ^レ此^レノ^レ所^レあり 北

余^レ亦^レ集^レニ^レク^レ一^レ意^レニ^レハ^レ此^レノ^レ世^レノ^レ一^レ世^レニ^レ知^レル^レ可^レし

何^レ故^レ不^レ滿^レま^レも^レも^レ一^レは^レ遠^レく^レと 東

亦^レウ^レシ^レノ^レ采^レ人^レハ^レ何^レカ^レ言^レフ^レニ^レモ^レ合^レハ^レル^レニ^レイ^レノ^レ作^レシ

亦^レあ^レち^レと^レあ^レれ^レハ^レ彦^レと^レし 北

万^レ年^レ流^レ移^レ移^レシ^レも^レ残^レリ^レ在^レル^レ人^レノ^レ相^レク^レニ^レタ^レル^レナ^レリ

亦^レも^レ不^レ形^レ遠^レハ^レま^レも^レも^レ 北

亦^レも^レ不^レ形^レ遠^レハ^レま^レも^レも^レ 北

亦^レも^レ不^レ形^レ遠^レハ^レま^レも^レも^レ 北

亦^レも^レ不^レ形^レ遠^レハ^レま^レも^レも^レ 北

亦^レも^レ不^レ形^レ遠^レハ^レま^レも^レも^レ 北

亦^レも^レ不^レ形^レ遠^レハ^レま^レも^レも^レ 北

二海耶々々根小雲のかくもる

水

ニカラミ名世あ方ヲ先降極魁ナリ、ミテモ夜以ノ景をい摩
邪ハ極深モテ大カノ浦ヲ照ル、スルハ、

夕飯ホウ子サレコ喰ハ風草

北

能作：附ヌラタ金イト時モテニヤラテ根虎ヲ附テ位ヨヤ景ノ度
辺ノモヤウシ

地ノ口所とウキテえ味とモ

水

豊原、サ有早ク付アリ但風草モ、サキトハ自サリ

あろいりふハ云れて休むり

水

原ノ世術し〜履と〜の

水

与奈、ミテ又は夕合テニカ一臺トス但あウ、初ニ、中妻ヨリ、此ヲ見テハ

ニメトミテ、高ナリ、サキ代、ミテ、高ク、ハ、附アリ

金澤と人ハ時々〜カノあを

水

共、心ヲ思ハ、時々〜シ、ホコリ、タ、家、元、附、テ、金、澤、ハ、其

人ハ他、ス、ミ、テ、上、見、又、サ、カ、ミ、ト、ミ

何ノ風呂始の、方、の、月

水

今、得、ノ、後、ヲ、時、ニ、シ、偏、屈、祝、又、慈、風、呂、好、ニ、為、サ、リ

町内ノ積もウ方、り、明、色、を、ぬ

水

正、カ、所、風、呂、の、世、ス、ニ、タ、リ、カ、上、ニ、シ、辭、古、場、好、ト、人、ニ、倦、ラ、ル、ヲ、秋、ト、ス
ウ、カ、ビ、カ、デ、カ、カ、ト、モ、タ、リ、ト、ハ、ウ、カ、シ

何とスるも〜云、を、り、し

水

ニカ一臺、の、途、方、ニ、サ、カ、ミ、ハ、ウ、ニ、成、テ、麻、お、ラ、タ、ミ、一、所、ハ、ウ、カ、シ

ト、ミ、ニ、ミ、ミ、子、サ、レ、ト、タ、ル、ヲ、ミ、リ

是、こ、ち、ろ、ウ、ハ、由、念、ウ、ニ、成、と、ろ、

水

形あり、給とありしとて今伊多

嵐茶

史邦は人なり、強原、オ子、ナリタリト云

うと重かゝる竹の刻下

史邦

主人、今秋ニ下詔、欠ニ給ト云、竹ハ後リ

花も又ことゝの事、是を

神

陽者、下詔ナレバ、此ノ言リ但白系ナシ、其ハ後ハ附

雛の被と降る、其ハ

好紅

風トナニタルハ、風情ニ言リ但春條、神ト云、佐保姫、子ニ條ハ春

後、義衣之、秘花終

秘社物語七部集卷之六

炭俵之巻

○梅くふのつと目のあゝ山はど

又

とこゝろくふ符子のつと

中坡

句作^レ用ス、折海^ヲ古宗^{ナル}ミ^シラ^シ初^ニ附^リ但^ニ梅^ノ枝^ノ移^リハ

徒^ニ然^ル古^ノ実^ヲ如^ク梅^ノ枝^ノ行^キ附^リ奉^ルアリ

家音情^ノ或^ノも遠^ク不^レ付^テ

全

仲^ニ美^シ凡^ク情^ヲ三^ニ農^ノ家^ノノ^ノ帳^ヲル^ヲ云^リ

上の便^ノくふる糸のあ

又

上^ニト^クニ^シ多^ク後^ノノ^ノ意味^{アリ}下^ニト^クセ^ハ死^ク夕^ナラ^シ死^ハ活^{アル}仕^立ヲ^味

方の内^ノを^くとせー月の雲

全

不^レ明^カア^リカ^リね^ズト^クニ^サノ^ノ実^上リ^カ陽^ニシ^テ一^クト^ク入^リ

ニカケラシメ其ニキ程アリ但極方と

ト云々ト何由の者お送りけ

後日附ニカケテ抱上ル程あり

ムンムンシ 若者の世人と云々

高家似合ハレ作ララ情附高家亦姿アリ

婚リ来セ婚の世とハ云々お送り

ニキ人トシテ婚セテ後ニキ程ハ白アリ・娘ニ成

ことーの者ハ何と世スツぬ

ニカカラニ舟ト出入有ナトソニカ程程ラ云々

念仏の細き馬を致サシヨウ人

云々おも、程ニト所ナリ細キニスルニ云々傷、程程

比ッパレいの 小云々 びらと云々

入仙傳手ハ下ニニ人傳ニ云々ヨリ小云々奇ニ比真ニタリ附シ

夏の物ハ程程見不吹倒水

附ニカケテカキ

る世の望望の程不 後日

ビックリトニタリ如マ味

カハ云々 江戸 傳人ある

望望ノ程トヨリ 福アリニ云々味ニ付ニタリ

今小庄司の口ハ何と付

ニカケテニニ口ハホトケスト付カニ云々

云々云々 亦云々 亦云々

車ノ洞アルヲ云々其有ヨリ其日程ヲ合テ托物ニタリ

云々云々ト云々の程云々

牛 重 坡 牛 重 坡 牛 重 坡 牛 重 坡

春不尔 泣し 春を 居ぬ 方・月 鳥

春不尔と云ふは 春を居ぬ 方・月 鳥
春不尔と云ふは 春を居ぬ 方・月 鳥

フ

春不尔と云ふは 春を居ぬ 方・月 鳥

春不尔と云ふは 春を居ぬ 方・月 鳥
春不尔と云ふは 春を居ぬ 方・月 鳥

春不尔と云ふは 春を居ぬ 方・月 鳥

春不尔と云ふは 春を居ぬ 方・月 鳥

春不尔と云ふは 春を居ぬ 方・月 鳥
春不尔と云ふは 春を居ぬ 方・月 鳥

春不尔と云ふは 春を居ぬ 方・月 鳥

春不尔と云ふは 春を居ぬ 方・月 鳥

春不尔と云ふは 春を居ぬ 方・月 鳥

春不尔と云ふは 春を居ぬ 方・月 鳥

春不尔と云ふは 春を居ぬ 方・月 鳥
春不尔と云ふは 春を居ぬ 方・月 鳥

春不尔と云ふは 春を居ぬ 方・月 鳥

春不尔と云ふは 春を居ぬ 方・月 鳥
春不尔と云ふは 春を居ぬ 方・月 鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

よ(テ)奈(来)に(後)しり

は(其)ハ(と)く(や)い(ま)じ(の)聲(一)あ(る)

牛

故(チ)亦(ウ)一(カ)ハ(ウ)ス(ヒ)カ(ニ)合(テ)叙(シ)タリ

林(一)あ(り)以(テ)今(ノ)小(橋)こ(て)

あ

花(葉)以(テ)附(ケ)テ柳(ヲ)思(フ)ア(ハ)ニ(ウ)一(意)ニ(準)シ(テ)其(共)ニ(院)至(リ)テ

空(の)流(吹)そ(く)一(ま)る(る)月()

屋

必(出)せ(こ)時(予)に(附)テ(余)意(味)に(一)志

布(を)丸(け)て(あ)る(る)一(布)

布

朦(朧)々(々)其(方)ニ(室)死(心)カ(シ)テ(一)主(リ)ハ(カ)ニ(花)積(モ)又(用)アリ

而(曲)る(隙)と(中)の(ワ)く(く)あ(る)

あ

後(口)所(シ)シ(カ)ワ(コ)シ(カ)子(ニ)モ(カ)ハ(包)ト(成)タル(名)ニ(入)ル(ヘ)シ

ま(つ)ち(坊)に(以)上(一)下(一)も(あ)る

牛

更(ニ)其(用)ノ(附)ナ(カ)フ(也)方(非)美(ヤ)ト(云)余(情)コ(モ)セ(リ)

流(心)の(も)そ(く)小(の)木(一)し(淺)サ(テ)生(ル)

木

後(口)所(シ)ニ(ウ)一(意)花(ノ)へ(ニ)余(情)ハ(知)キ(身)人(ナ)ト(カ)ク(イ)テ(一)此(カ)失

玉(ノ)伴(有)野(邊)一(送)リ(モ)世(ヲ)帰(ル)ア(ニ)ハ(イ)ナ(リ)

ら(あ)ま(り)水(も)あ(る)今(を)以(テ)た(つ)め(る)

水

亦(後)ヲ(忘)シ(タ)ル(伴)シ

恙(の)候(ホ)を(久)ん(て)居(ル)ハ(何)以(テ)ウ(キ)

牛

亦(ウ)ラ(若)ク(モ)時(ノ)久(ク)故(チ)行(ト)ス(一)一(万)余(意)考(一)見

客(以)て(遠)方(に)投(了)一(福)を(念)

水

亦(對)無(任)サ(一)西(京)ナ(ラ)シ

今(の)乃(不)々(の)石(子)々(々)以(テ)見(る)

屋

今の子ノ落雁ト云サレテ見ルト云自然ヲ意味

年貢降らんまると云云らん年しおらん

御令巡見ト云也但云ハ是年ノ貢ト云ル語モアリ

息山火小祀又のち修及のちと云云

云云ト云ル人ト云リ目出タサノ語ハ云云ルノ白ナリ

堪忍あゝぬ七夕の頃

徒アル部ノ田野出テ残暑ヲ感サレ語云云アリ

石月ノアヲお合サレる草圃

草圃細心ル所ナシナリ

すくすくあそぶあそぶあそぶ

乃今セタル語ヨリヌクニテト云キテ語所ヲお忍セリ

世にハ名のついでし居らん

今新ノ所ニテ物ヲ動スル所アリ但云秋ノモヤリ

心の程除の細りてはうあ

寂寞ノ極程ヲタノ風情ニ合致セリ

移雲小そらく風の吹出

此ト云語ヨリソヨク風ノ吹出有テ氣ヲ移シタリ

晒のト不きまけ

日和ノ況ト云ニテ附タリ

花又あつと妙子斗のつ水

人傳言をト云フ所ハ附タリ妙子斗ハ物ノ語ト云キテナリ

余よあそぶ草

草ト云ヨリ余ノ草ヲモトハ作シリ但木瓜割ノ意ト云アラテ草ト云ニ
ホトトハヤサキキノ子ノ云ニテ草ト云ニ草ト云リ如此科体ナリ
ト云片時トスレハ不若不見云心

鳥

水

牛

草

庭

牛

水

庭

牛

鳥

鳥

○百負

○子ハ裸父ハてくら傳又裸母

利牛

一、余情兼辰業ヲ悔ム神ニテラトハテシヒニテヒトエノ草衣ニ俗トテラトニテ是ヨリ出テ木下長嘯子泣ク

ふれーさきヲ鳥極ノ下涼ニ父ハてくらハ女ハ二布してトヨリ此歌ヲ授トセリ

母のいそぐけまむ小嘆

中坡

モ抑シ但子モ父モ君ヤウニニ自ニ嘆ク語ヒラキ子除見之タハ知テリ

る阿り珠殺りけ魁の啼きして

孤屋

二而後ノ鳥ノ嘆名ト延ミタル謝テナニノ語ニタリ

タカ所より向ふ西風

牛

キテニラカニテ四々メテリノ怪ニテ見

竿竹小足玉色の袖とくよせ

坡

吹ヨマタルサラン

るう放れてけめく人々

屋

ニ、あるニ、女、集ルサニ見ユ

る月干系ふの如けしるくさー

牛

更ト見ルトノ意ニ合ニ、何所ノ風情ヲ言リ但立件、狂ット界

降を泣らば種ちるあー

坡

流ッオロシ草ニ、並ニテ、庭ヲ入リテ、降ニテ、降ニテ、降ニテ

ち、めその中てより出とるり不阿々

屋

地底ニテトニテヤ、雲ニテ、来ッ

坊之小あしとやろり仁平治

牛

禪のつづきに死法ヲ可具但世間心軟ク成レシ

杉原の矢川へそりる表を通り

坡

石利ヲ去放下ニシル人トシテ不用也ラ云出シテ是レ人トシテタリ

吹く時とつゞき圓の夜

屋

魚ニテ食ルノ余情アリハキト云ニサ作ニテニ変化又ヨシ

十二王辯の衣衣裳の巾扱ひ

牛

十二王辯の衣衣裳の巾扱ひ 十二王辯の衣衣裳の巾扱ひ 十二王辯の衣衣裳の巾扱ひ

ヨソラヒニ成

巾堂を〜〜〜

坡

二方一入ニテ入謙大念ヲトイニタ始ラ又云ニ在ニタル五ルサレ

日のあつる方ハ赤むむ牛の毛

屋

夕夜十度語りトニテモラ巡ル根ヲナシモモ後陰日南風

只のあつる方ハ赤むむ牛の毛

牛

暑中ノ風情有ニテ候ヲ趣向セリ

山崎の川の詞は神て

坡

実ノ候ニシテラウノ詞ニモ設有無水ノ情ノ詞ノ度トニテ夏

レルコトモ又我等ト云テラウト云テ通例ヲラ直ニテハラウト云

是ラニシテ其ニ云リ 是レハ白ラウトハ少クナリタルヨシ直ニニカニナリト

天気の秋はこの月の夜

屋

秋後、キケニラニ 是レハ何日ニシテ月ノ夜ニテ子供ノ時ノ降リニ

生る〜〜〜

牛

浦人、語トシテ生ナカラトニキウ〜スル月ノ夜アリ

標の突〜〜〜

坡

毛ヲ秋、語トシテ生ナカラトニキウ〜スル月ノ夜アリ 毛ヲ秋、語トシテ生ナカラトニキウ〜スル月ノ夜アリ

にキタルナリ

寺堂の之風、連立之花曇り

屋

西花ヲ世々ハ飾キ世アリ但去、務ニ互作ハ句詩イカラ小休ハ在、

師於供以、人のそかつく

牛

連ニ有、ソコワ、トトリ、少部供ハ法、法師、法會ニ有、

ほろくと二日冬々のいふし

坡

身毒、人ノ世、万ノ善、ハ情、モユ

ほろく、阿への情、お、

屋

亡、エ、ル、汝、有、世、世、入、情、ハ、善、ホ、ホ、ア、エ、疾、喘、印、アリ

ふ、以、神、成、振、て、ま、ま、め、あ、い

牛

多、キ、極、劣、シ、テ、論、ガ、ワ、ラ、ス、但、ホ、ク、ア、エ、ト、云、コ、ホ、ル、ト、云、振、テ

ニ、ス、ル、ハ、ヒ、ト、モ、ヒ、タ、ス、シ、カ

ふ、お、月、の、糸、し、ま、よ、つ、つ、波、線

坡

多、情、極、劣、シ、テ、飛、リ、キ、越、テ、外、ハ、ス、但、在、世、ニ、キ、ラ、ル、大、集、ナリ

ほろくと西玉或士のまのつと

屋

多、情、極、劣、シ、テ、飛、リ、キ、越、テ、外、ハ、ス、但、在、世、ニ、キ、ラ、ル、大、集、ナリ

お、ま、の、つ、と、ま、の、つ、と、ま、の、つ、と

牛

六月、注、中、系、靴、ハ、川、ノ、傍、下、リ、ナ、キ、作、ラ、シ、ク

印祖の、ま、い、い、い、い、い、極、ま、ま、ま、ま

坡

釋、三、ア、ニ、コ、ナ、シ、杜、々、モ、上、ニ、モ、ト、云、フ、附、ナリ

お、ま、の、つ、と、ま、の、つ、と、ま、の、つ、と

屋

寺、院、後、ハ、度、キ、團、ト、ニ、ナリ

瘡、目、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

牛

今、下、不、代、ナ、ル、ヘ、シ

藤てまゆら下張のまゆら

坡

コウクオウの情テウコキタトモ旅ハ病人ノ用ナリ

つとないのふげやけなま

屋

まきまきせしむけし履テスケルヲ早賤ノ風俗ヨコタリ

藤の裏のまゆら井のまゆら

牛

馬ノ背ヲ根ヨリまき旅アリ馬ノ水取ヌトまきニ信通例ニ

まゆら・月積よりまゆら 古 柵

坡

まゆらノまゆら新ノまゆらニまゆらトシテ邪見ナレバアリ

芋菜のまゆら

柵

屋

まゆらノまゆらヨリまゆらヲ備對付トスコリテハマナリ

まゆらとまゆら

牛

まゆらノまゆラニまゆラハマナリ

産てくまゆら 柵のまゆら

坡

まゆらノまゆラニまゆラニ

伐遠まゆらと柵のまゆら

屋

松人少をまゆら

赤い小まゆら

牛

まゆらノまゆラニまゆラニ

傍近ハまゆらのまゆら

坡

まゆらノまゆラニまゆラニ

所を比丘尼の柵のまゆら

屋

まゆらノまゆラニまゆラニ

籠橋の白伐まゆら

牛

まゆらノまゆラニまゆラニ

又龍一く又松使さく

其母キミヤウ又情後但終ラニモモウキア是又松ヒキニ

かやね又才の己のり成をさく

又龍之語ハ不自由サニテ龍モ有ニサシラニ

入来る人よ味あそびあす

昔ハハニ味あそビハニ極向セリオウツ家ニ極ニヨリナ成ニテ

節遠木綿 浴の湯田川

夏ニあそび婦人ノ浴ニ

山多子屋アム白く 右のさつこ

歌者ニ年々妻サトコト下入ニテ

ほやくとせんとくろくは雲ちさく

而多子屋ヨリニ見ル

あま菜よ緑さく

乙代の内川越してあす松糸

山多子屋ニ附リ物作ト云々松糸アリ但松糸ハ松葉

あま菜ニ草也カサ又附リ

鹿鹿よさくさく

鹿鹿ニ鹿也今新リ

さくさくさく

是ヤを心付ニテおん泣脈ヲ奏テ鳴ラニハ又あま菜ハ情也

さくニテ入リ

入身つくく月の六月

夏ニテハ白クイナ件ニ附リ

拭きお上のあま菜さく

坡

牛

屋

坡

牛

屋

牛坡

屋

坡

牛

屋

私同屋ノ移居ナラニ執カト下ニ

移云つゝ 詞々かし

小下雅共ナルヘシ

大木の何けん不細の何のけて

境目端にけり

何之牛 昔提一れぬ 柄の木

流来ル木ナラニ

寂金より同心の詠哉つき

但危方、種ル、時ス

九九十口隠哉 於ふ

文之用、用ナリラ自れ等マ味

後子之服之儀はあつとあり

文用、ナリ

足る一其各福也 備少ある

前子、ミタルハ向ハセナリ是ナシトハ後子ト云、後トシ

星放れ以礼川の梅つきて

主人付ニ梅実ト云、梅は是實ト云、漢詞ニ梅ニ方、梅根亦方ニ云

又作リ又改ニ者記自ラ安シ

やまゝうあ哉 坡の標 え

石川、あつと云、タラシ但ソシリ、云、標ニユル

えよかゝる 移れし子の移進 心著

和カカニ移ルハ云、心著ニカケルハ、妹ニ成但婦人、性ニシヤリ

いんち果々 八方ニシ

ウシナハウシナナリトニ同ニ云テ味

坡 屋 牛 坡 牛 坡 屋 牛 坡

二方一尋下三吟、後クハ文ニ三吟、延テ述メリ

秋の尻尾上の秋成、静水とリ 其角

秋天高ト云ハ、静水ヲ述メリ、後感思ルニ余存ニ志ニ志ニト並ヒタル
秋ヤカハ八九を云ハ、延テ述メリ、誠ニ長高キ句ニ

述テ一冊也、後クハ 孤尾

山河川邊ニテ村々、遠ク、眼ニシテ但ニ夕、画景、如シ

秋常ニ日備、後クハ 貝吹テ 全

秋夕ハ、晴天、延キナルヲ云、後クハ、延テ、人々、集ル、貝ニ

月のくらし、心、離、の、門 角

其物ヲ情ニテ、秋、味、下、夕、清、心、但、月、夕、天、象、依、テ、示、セリ

此、天、々、の、や、秋、の、心、を、示、ス、と、云、リ、シ

門、秀、海、ナ、セリ、日、備、ノ、句、を、云、ハ、有、リ、与、存、ホ、リ、お、記、云、如、子、存、ホ、リ

延、テ、お、夕、ハ、与、一、お、夕、一、種、ヲ、集、テ、終、ル、也、ヲ、与、天、集、ト、云、シ、テ、秋、成、ク、ハ、

端、ナシ

つと、尾、ハ、丸、有、こ、も、手、屋

お、夕、ヲ、云、ハ、延、テ、純、雅、ヲ、振、テ、云、ハ、有、リ、辟、言、テ、言、ハ、延、キ、決、テ、言、ハ、延、キ、

言、ハ、延、キ、タ、ト、云、テ、途、作、言、リ、此、ハ、場、ヲ、越、テ、批、判、ニ、有、リ、ハ、作、用、ヲ、云、フ、

ハ、ヲ、示、ス、ル、故、也、ニ、夕、ニ、云、フ、ト、故、タル、お、夕、カ、故、ヲ、越、テ、端、ハ、言、ハ、カ、リ、

度、也、後、晋、子、ハ、文、孤、屋、ト、云、フ、若、果、ナ、ラ、ハ、作、者、之、何、リ、後、世、ヲ、云、フ、

ニ、カ、ル、テ、シ、残、ニ、云、ハ、キ、ヤ

下、京、ハ、何、故、の、延、六、丹、ヤ、一、ツ、テ、全

川、橋、ノ、種、様、ト、云、フ、言、リ

坊、之、の、と、ん、と、ん、と、ん、義、衣、ハ、お、一、し、角

系ねる不徳ヲメテカニキテ榮ヨリト云志。死後ニ里社内志ハ
中ニモテケニテ許シテ又ル延ニ附ナリ

とん 藤ありし金のまひた 全

花甘おまを子とて看えた放捨亦非ヲ悔情ニモナリイ共不知ト也

宮の徳の ね〜〜〜〜〜 屋

作事ヲ悔情有ヨリ宮祇有あつたこと通際ヲ察ナリ宮代ト云知
但宮中近江ノ宮まこと宮御ハ破後、勝リタル上京ナシハ塚斗ヨクニ後
ハスニヤカニ知ハル都之他平京ナシハ

宮の 堀小々して通してやつ山々 角

古ニテ用ヲあハル意有ヨリ 野田おし比故ガシを名ハレ其大ス
延ニテナリ 其を名ハルサマニテ可見

あま〜〜〜〜〜 屋

主人ニテカ一体ニ非人し有ハ小ハトテ諸善息ハ余ニ知ニ泡紙ニ云ハ
中和ニマエテアハネハハルニルノ語ニトテ知

今年のこま 窓 棋の 棋と 屋 角

今更新ナリ但アバタノ語ニ云ニ窓棋様ニニ後リニ味

その 解ありし 屋 風名 成 橋 屋

セハお代ナシタリ但作用アリ

君 来ぬハこのれ 冷中ノ の家とあり 角

凡ソノ中ノ人ニ悔ル祠ニカクテ名シ先祠ヨリ 忍ニ妻ナトニニテ云リ

得と 境との 片なる 屋

老タル父主人有テ始テハコクメル細キイトサニ有サニテニ有ルハ

中令ニルノヒニキニ

幸 崎ハ 力の ことなる 社ノ 屋 角

從來、サヨクニテモ前節ニシテ

かよし 流る 月 の 雲 け

迎カトモ云ニ比良ノ峯ニ風ノ吹カサリ

海 隔 して 舟 して 来 る 舟 の 残

帆 色 可 凄 ント 云 ハ ヲ ヲ ヲ

上 雲 あり して 流 々 色 残 雲

常ノ子ニ云セリ

小 舟 亦 讀 片 云 于 せ て 表 之

自ラ隣ニ讀ハレ 情 主 云 而 留 屋 下 哉

いふとくつく 憶 舟 の 帆

是、日トモテ云ム用ヲナリ 舟 越 舟 ヲ 云 抑 非 シ ハ 論 ナリ

帆 屋 旅 立 々 舟 来 て 流 へ の 舟 留 留 舟 今 日 夕 未 満 一 時 停 舟 也

○ 道 々 々 移 心 集 々 々 紫 々 々 推 隣

流リ舟共々云々 撰集相 西行カ人、骨ヲ集テ形ヲ作シ、有又撰集

人、舟ハ也、舟中骨ヲ包メカ如トシテ、カタク云ハ共、モノシ後、ソナエタ

リトイエ、常ナキ風ノ吹来ラ吹碎シ、知ノオノ有サマ、紫々々、如クナラ

サラニヤ一団、ハシカニシテ、ハ 祝 思 入 ハ 祝 意、一ウナリ

とん 々、あ の 屋 々 祝 凡 堂 坡

附言、此等、骨、竹、有、夏、ハ、血、脈、ニ、シ、リ、カ、ニ、考、シ、ハ、祝、意、ヲ、オ、シ、テ、調、一

又ハ、ハ、カ、ニ、祝、意、ト、シ、ニ

入 月 亦 流 へ 入 る 舟 折 以 之 利 牛

家、ミラ、ニ、折、リ、テ、合、ハ、ミ、花、ニ、折、カ、ハ、折、ル、事、ハ、見、ル、是、ニ、折、ル、化、シ

○ 塚 の 舟 一 相 の 廣 かる 隔

大山ヲケモノ一様ニクニテ例ニ

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日
早サハ見え名紙 元八日
早サハ見え名紙 元八日
早サハ見え名紙 元八日
早サハ見え名紙 元八日
早サハ見え名紙 元八日
早サハ見え名紙 元八日
早サハ見え名紙 元八日
早サハ見え名紙 元八日
早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

早サハ見え名紙 元八日

三年ノ暮ノ種福トミテ廻向ニタラシ

空身傳ふくはと自慢、これこそ

沽圃

幸トミテ其ヒツラン

儀、ハリてせ、成、え、て、ま、る

子欄

お夕世用、元ヨリ、春、集、ニ、ウ、一、帯、ト、シ、タ、リ、世、隔、ミ、古、及、果、テ、店、ツ、キ、ニ、成

又、け、さ、し、佛、の、飯、て、博、成、明

利牛

表、店、信、ノ、種、福、坊、主、ト、行、と、名、作、用、ノ、変、更、ア、リ

換、ま、り、し、て、賢、心、教、あり

秋風

お場、原、果、仁、之、ニ、又、作、用、之、世、お、夕、作、ト、ス、ア、シ、イ、ツ、字、亦、日、以、三、三、上、行、し

之、種、者、の、ミ、タ、ル、ハ、亦、越、シ、不、端

大坂の人よ、ま、ま、し、る、冬、の、月

利合

御、ス、ル、ト、キ、人、ツ、カ、の、月、ニ、お、夕、テ、お、夕、ツ、カ、ト、シ、タ、ル、ハ、

ほ、げ、山、ハ、祖、母、の、え、ま、り、る

望坡

お、夕、名、智、ハ、リ、タ、ト、之、思、ク、ハ、何、ナ、リ、お、夕、ノ、虚、作、ト、為、タ、ル、ヨ、リ、越、シ

ウ

ま、ま、け、め、る、清、前、の、心、の、元、々、し

子欄

進、退、者、之、ナ、シ、メ、ル、虚、作、ト、シ、タ、ル、ハ、一、向、字、ノ、持、仏、シ

次、の、少、額、危、て、つ、お、む、せ、る、ま、ま

利牛

此、家、種、福、種、セ、リ、但、進、退、ヲ、シ、ツ、コ、ウ、カ、リ、コ、ウ、テ、作、シ

細、束、エ、か、く、ま、て、清、水、ハ、坂、ノ、陰、に、斗、し

房長

病、お、ト、ミ、ナ、シ、テ、附、ミ、自、然、心

空、六、冠、の、清、水、智、も、ま、ま、る

秋風

お、夕、ハ、名、ヲ、シ、タ、ル、智、ノ、種、ト、シ、タ、リ

花、の、身、ま、ま、り、ま、ま、り、ま、ま、り、ま、ま、り

花儀

口こ小寺り長景城書並し
莫

前夕、先ノ字ニラニ有テ堂塔ノ廣キハ移ヨアリ

殿乃小笠乃跡を淋しき
泊

移傳、その小体ニテ改テニテ

浅傳して予こをつめ小島
星

のり、下ニテ又ト云、地ノ邊シ

鼻下して色よ小神理言ふ
莫

神入カニルベク、柳リ、鹿ノ仲ノ色ハ、吾ハ云々、又ト云、其ノ事、有シハ

肌入て移り来しりりり月
泊

食、その月、意ハ鼻下、詞ニ肌入トハ云リ

歌りよ月し玉並つる
星

月、係向、先ノ字ニラニ有テ堂塔ノ廣キハ移ヨアリ

竹を思ひて予の母り詠る
莫

世世、竹、思、情、ニ、換、若、之、後、母、初、見、室、中、意、シ、ウ、位、名、味、詠、同、吊、墓、指、心、

を竹そり出ぬり
泊

此、信、原、氏、世、ト、シ、タ、ル、世、紀、語、ト、ル、信、ト、シ、是、又、与、大、集、一、例、

世の如れし竹の母り世らひあ
星

世、世、種、名、ト、シ、タ、ル、凡、信、ト、シ、是、ラ、ハ、字、フ、ヘ、カ、ラ、ス

竹を思ひて予の母り詠る
夏

暑、休、凡、信、ト、シ、タ、ル、種、ク、シ、ス、カ、ラ、ス

花のよはさきしつ紐子の舞より
泊

花、カ、ニ、シ、ン、ハ、風、信、同、テ、前、夕、ト、シ、七、文、字、ト、シ、キ、タリ

あま由り古のうそく仰る
星

あ、ま、由、り、古、の、う、そ、く、仰、る

若舟の風情を祇宮にたり但安情ヲモタリト云

別攻人の云せし 位

臺下ト云ニモ亡人ノ子ヤ等位

巨燧の火信を勝多成るの事也

信州の事ニモ云ルニ遊旅之方、移根ニ

一石の事 碓の事

是又信州ニテ前々、事ヤテ運ラレタルも居

折こハ實又、昭の事なる 天乞 ね

為掃^{ナリ}ニ承^ル事ニ^シト^テ他、夕ニ^テ至^リ強^ク四^リね^ニ會^テ自^ラトス

作^ナ加減^リ 遠^クよ 夜^をさ

二方一件、附

月影小々年々長^ク 吸^テる

前々ニ方一件ニハ月影、天邊ヲ燦^ラス猶^モ人

少^シの信^トふ^ル事^ヲ秘^シて^居根^ヲぬ^く

新^クシ^テシ^テ氣^ニ吸^{ヨリ}早^ニ秘^シテ^居根^ヲク^テ前^々ノ^信ト^一見

佛^シし^テ塔^ヲ以^テて^塔の^妙情

名^ノ信^トシ^テ法^{ヨリ}移^ルニ^テ物^運ヒ^ヨキ^アニ^ハイ^シキ^ニ神^ノ事^シ

事^々の^秘成^ニシ^テ信^ト仕^テる

亦^智自^ラ友^ヲ逢^フ事^ヲ相^シ信^ト云^フ用^ニシ^テハ^亦秘^シテ^居信^トシ

花^ノ縁^ヲド^ク乃^ク方^ク一^ニ西^ノ白^い

キ^トイ^テ咄^ルニ^モ看^ル事^ヲ有^ル中^ニニ^モ花^ヤカ^ハト^シニ^モ以^テシ^テハ^亦キ^トイ^フト^ス

寺^ノの^事け^レも^も心^ノ際^ノの^事也

前^々ノ^事ニ^モ秘^シテ^居泉^水木^石等^ノ事^ヲシ^テリ^テ前^々ノ^事忍^ビシ^テ風^色ニ^モ附^ク

み^よう^ハと^くあ^りぬ^り 比^ノ鴨

比^ノ鴨

きろくしり 登の上留云

考

与不集二方一を

忠義の 四角の ところ

忠

都迄の 二往來 舟中 二宿 元 徳 北 二 以 信 二 又 忠 義 二 四 条 有

和と 下 一 心 園

和

主の 信 二 二 舟 川 舟 元 又 和 二 舟 元 揚 二 舟 元 二 二 一 体 二

今の 舟 二 舟 元 二 舟 元 二 舟 元 二 舟 元 二

舟

二方 二 舟 元 二 舟 元 二 舟 元 二 舟 元 二 舟 元 二

大さな 舟 二 舟 元 二 舟 元 二 舟 元 二

大

ニカクスト 二 舟 元 二 舟 元 二 舟 元 二 舟 元 二 舟 元 二

書 二 舟 元 二 舟 元 二 舟 元 二 舟 元 二

書

比 二 舟 元 二 舟 元 二 舟 元 二 舟 元 二 舟 元 二

御 二 舟 元 二 舟 元 二 舟 元 二 舟 元 二

御

イ 二 舟 元 二 舟 元 二 舟 元 二 舟 元 二 舟 元 二

右に於て一々のま不、よく何と切字も用ひられし、
 切あると云ふと、つゝも、
 終ると云ふ字に、
 池意、
 云州の切、
 右に、

○ 二字切
 右に、
 詩曰、
 夏に、

○ 二字切
 右に、
 右に、

○ 三字切
 右に、
 現在、
 未、
 恐、

○ 二反切
 右に、
 右に、
 右に、

○ 二反切
 右に、
 右に、
 右に、

○ 二反切
 右に、
 右に、
 右に、

ま、
 右に、

○ん切 秋風おれそ悲しと葉の秋

右んのかあくお移くしし新風の涼しき小仙居の葉の
木乃秋我なまをせしら記うあらんともお分れてあらし
悟ぬうん切なり

け難多し只父ん切き上下長短あれも詞不あしこそねんま
お念ふ侍せけおと見え歎ひ惜字傳りし上ふあ字一名の
あ方くはき皆やふし

袖素葉にうよやこらん 晴ちせん

あまきばあらしのあはれいひのらん

えりれいんや持しるあせぬくひ

持て行裁となり 持をちんか念言ちり

えりれのらん

えりれ持ちりしものを行裁し

このやふおしれいをとりあふるあ

○はき切しし只父(冠次の個目)

○白積の切忘れれは小夜の中心し

右夕積の切は未束のものを記しおを裁きしもの不指南し
てゆらりのさるけしし仮らし持しおを夕積の切と云那

○柶字 何木もたもてふは白ひん

は父柶字、右の上へあこお付し 吟してあらし

○ひの字はり入

哉之事 恰定からんは 切は姿のあひは式と云上お切字
あらしえりしあらしれあらしは 持しおをひん 持式と云し

我文字は此の如く是等の類に決定するは其の如く
切字を取るとして此の詞をかき取用して

多し

是等字類の如く人との如く

此の如く切字の如く或は或は夕歌のや乃歌や
文字の如く

夕の如く切字の如く

夕歌や袂の如く

○抱字

右抱字は夕歌のや切ありとて文字の如く
して是等切字を袂と抱て一向多し

多し

○重字の切

右重字の切は夕歌のや切ありとて文字の如く
して是等切字を袂と抱て一向多し

右十八の切字を以て根として其の如く

根は切

○次め情事

年白 年の尾や切の如く

年白 年の尾や切の如く

右の如く切字の如く

白中より月が極月近の光陰終るんと合して余情とあり
形く歌く空情の融空情の融空情の二有より同類を
用るものも有るなりと云ふなり平均の義を云ふなり
或と云ふを求むる右の甲一先原平年の印を積む
はくるとは探年久の口史あり再空情色有川句

死 入しる果の空て又くうと

虚 入ぬてくの空て又くうと

地 控ふるてくの空て又くうと

風 控ふるてくの空て又くうと

右口史死虚地空情の融空情の融空情の二有より同類を

○ 虚 系 印 進 して 雲 と あり たり 風

虚 系 印 進 して 雲 と あり たり 風

実 系 印 進 して 雲 と あり たり 風

正 系 印 進 して 雲 と あり たり 風

右虚 実 非 として 二 空 と 是 と す 此 陽 と 虚 実 の ち ち ち

と 二 空 脈 あり

不易の夕古代で陸と能述むるのち

流りの夕景はしそ又の産六七を来

右不易の流りの夕景はしそ又の産六七を来

不易の流りの夕景はしそ又の産六七を来

不易の流りの夕景はしそ又の産六七を来

山崎や陸飛込むるのち

六流りの夕景はしそ又の産六七を来

眼乃るはるるをわろしむはか曲復の三つ有くその節も良かれと

金平くたしあつるるあやし

あけ採りて了るるの三あつて物のまほひ又しを係ん中
と教えし一記あり

○ 曲作ハ 存りや ぬあふ 信じ七か所

あふ神の皓月情もろくに對して石心のまじりて田浦
乃用氣を又そそ入と伺い出津か初年小まのこころぬ
ゆあつて人あのを復して七か所と云ふもあつ

作らば上と文字を以て居し句と連し申せ文字を作りあは

と家傳のまじり西施の合款のまじり

はあつたれを西施の古るるの家傳のまじりといふ彼も眼もまじりに
と似たりんあつたれを眼もまじりといふ合款のまじり合せしものなり
と家傳の合款のまじりのまじりといふも眼もまじりといふなり

○ 散句ハ 妍之章

人と見ぬまぢや後のまぢの物
まぢの死ぬまぢまぢのまぢのまぢ
まぢのまぢのまぢのまぢのまぢ

幽玄辭

梅の木は梅をさしあや梅のまじり
有妍後引とさあゆの少神を信
金屏乃まのまぢのまぢのまぢ

まぢのまぢのまぢのまぢのまぢ
まぢのまぢのまぢのまぢのまぢ
まぢのまぢのまぢのまぢのまぢ
まぢのまぢのまぢのまぢのまぢ

拙く書ふのつと口のあふふ語とし
不ことされ侍りかゝりて時ひとつ

悠遠所をきりし事ふと書あく口紙 山

三日月後を解き出さず口紙

不事い園として移す極々人

凡世解 志よくと移す所ルしやめふ記

家探の心かぬ終つ合終つ事し

ちんちんをあらをそふ一室上州

凡世解 けしけしハを更ふことふ不事

涼しと改我室おして移さる事

テのふをこし語とつしし若く

寓世解 道の道乃木種ハ言ふ言ふ

ちんちんアあはれちんちん 操

圓曲解 系情しそふん乃片ふ七を情

まててそ有る事このを言ふし

右邊の八解のつと自他のつ解をれと足まをてを語向をあら

根ふ及れへき清ちんちんかハ三十四解のつとつある事といふ

心八解とつとの事解ちんちん探あししこの世は白く根ちんちん

十南つ口紙

根のちんちんあはれちんちんとなふ。なる。ちんちん。外是らの

るありあけの志の文字にてあつる所の用を種類あり
之類三つあり一ツハ。主祓ておる二ツハ。区一眞字と云ふも是
を別字あり中ハ類のやゝ一し三ツハ合符の根あり
はかあり川の端を定る字あり一眞字の意代を種に傳
ありあけ一書中の卷ハ字島といふ一書しあり一書しあり
十百韻又合字通の中ハ角さや

引白

是より更に少く種を種に傳

又その書りも同りあり一山入又六月傳にありていふ
ふはありていふ

物と字を種になむけは

是成る細格も少く又ハ格も之

後流と少く又ハ元也

字を種と傳ふありていふ

是を種とす

是より更に少く種を種に傳

物と字を種になむけは

是を合符の格とす。合符の事むしハ主字を種とす
是より更に少く種を種に傳

合符はたとハ後夕の産乃夕一字成後の冠ハ祓とす有符也
是則合符ありていふ又其字の根付中ハ二三夕川

其のそとより其のそと

其のそとより其のそと

其のそとより其のそと

我女と云ふは元ハ元の度々人
狭路に於て其の如く云ふ
分合は其の如く様、
写す不樂し修も其の如く
放きしき、
放きしき、
放きしき、

右牙之の爲に、
あつて、
古式と新式、
この字を、
中一あり。
是に傳あり。
平夕は色、

平夕は色、

平夕は色、

平夕は色、

平夕は色、

平夕は色、

古式と新式、

古式と新式、

○ 附合くは変たて道

主人より天を、
観ねり、
るれあり、
向付、
あはれくと、

附向使の御めし古ちて出米人合

是と有ん付と云はるるを前向の御めしと云はるるに、
付と有ん付と云はるるを前向の御めしと云はるるに、
下七夕子より其の意成合事也

柏子上人の書かれハ云はるる也

七夕子より其の意成合事也

是を柏子としわくの心と云はるるを、
其の意成合事也
付と有ん付と云はるるを前向の御めしと云はるるに、
付と有ん付と云はるるを前向の御めしと云はるるに、

柏子上人の書かれハ云はるる也

七夕子より其の意成合事也

右の御めしと云はるるを前向の御めしと云はるるに、
付と有ん付と云はるるを前向の御めしと云はるるに、

附向の御めしと云はるるを前向の御めしと云はるるに、
付と有ん付と云はるるを前向の御めしと云はるるに、

記情書存し上りとのりなれ

其の御めしと云はるるを前向の御めしと云はるるに、

右記情書を前向の御めしと云はるるに、
付と有ん付と云はるるを前向の御めしと云はるるに、

向附使の人を侍せ

其の御めしと云はるるを前向の御めしと云はるるに、

右向附使の御めしと云はるるを前向の御めしと云はるるに、
付と有ん付と云はるるを前向の御めしと云はるるに、

云し跡を尋しの夕讀終む時ハ今付にまゝありてん好ま
甲申 庭まじり

高言 一代の神をたひるや秋の言

あつととあつと運りの実のま

右忠言の夕之治め々秋ありたふと自向自言の心
今秋ハあつと秋まじりころあり二夕を人悲ふ
詞々自他あり是と又子秋一の六ヶあつと
まじり用とととととと

逢夕 歳と一七の伯のけけまじり

口小かてて秋つふの篇 川

右の附夕逢夕あり今秋のよふの根あり人あり
そり逢夕ハ一ふふ人まじり前にもとれれ
言こ先と逢夕作り可懸向ふまふ。風。雲。ま。暖。は自向自
此即神祇の終末を怪く付放ち次一後所おむ子
夕や今秋逢夕ハありて此由先師と風話あり
神んの人まじり作りまじり

川夕 加茂の社はよむ社あり

○ 附夕ハ神將夕

かけ合の文をわり和を定う神
まじり焼て 休む 田 樂

いこのまハ相れの裾を流る
そ殺の只大ん秋控り一 俣

舟場より北を西の川に入
西横ハ志して江口の秋志流

亦街に之有頃の月掛し
子我集よ晴ハあけさふ

美野付

即ち又れ持ハソウク
心之世の跡とソハハと云々
是凡曲也

二曲の月何と云々のとかりし

此より二のり初又と目
お何々決さよこれとん

極込乃伸と瓦をさうら

梅も木まで多き新き

尾ももを担ひ天下百

是地西也

右標々三候附合は二前
一和を付へし世も一也

宗徳うまうし成えや

とソ不根

の主人とま水と夏

とソ(る)ことごとくは
夏之候の候候と云々
七八八種の方作
将方ハ八種の方作
おれと下ふ

其新廓に中を糸へく作りしとあり

中三段庫かきけしありとされ飛ひまきて

右是ハ籠りし今時の附合多きは亦この風情を心
物々としりし所の方と天下る所の夕風曲地西の流信
子々幸前の附合も地の後信ハ物々としりし

○ 後信ハ花しに改

通くや及の度けて多様

右ハ様ハ心なり茶室とて庭と大和との附合ハ牡丹ハ
ありありとありしや水ハ枝多根の花ハおして多様としりハ
多し様ハ心と心ありしし多様と用ふるや歌
ふは心ありしし又一心又一心一繩子花を又信しあり

巧のしり

附合一本様の手ハ花あり也

糸ヤとて彼一まふ心あり

右附合を本様としり細川法下より初して花咲
先生より交ありし信しと後更ニ用ふる人ありし人志
束様筆義の書しハ末の花と書して破信枝ありし
此あり様を本様の信ハ咲。實。茶室。是等の文字を句の
内にもしり則し花ありしとありしと信ありし
亦哉花のしりしとありしとありし

とよし種ハ花の心ありしとあり

右附合の三句前ハ心山室をし野の花種物ハ信ありし
花ありしとありしハ定花の多しハ心ありしとありし
不之老人言位の花後ハ作りありしとありしとありし

まゆを花の如く綴りて若狭あも其の夕我身し

○ 月の名新おそしし事

文科 一で星をとりおそしし事

右月の名おそしし人まは花に今作る事多し実よ
たすし長頸丸の片帆借ふとまめを帯を堪を赤
一花を月を袖をさす事とまめを帯を赤
と文科 一月の名おそしし事とまめを帯を赤
活生のまめの名より月の名を帯を赤
とちう一帯に仕立る時ハ袖表の月を帯を赤
右身桂男婿嫁ホの袖しを以て今作る也表の月ハ
若しくれ花を帯の袖し月の名を帯を赤
中のおそしし事用花を帯を赤

○ 花の附夕の事

幸崎乃まは花より街まで

心持さかを忘るる事

右系は花の附夕の事
つちちちち花の附夕の事
花は花の附夕の事
花は花の附夕の事

○ 花の事

花の事

右花の事
八月月
花の事

あつちのつち力まゝにふるふる月あつちこつち「仕立る」
折廻し不四別ありつち八月のつち不四別後の文字用る
事あり、小甚冬期の月世と色ハのつちを付用し
夏の色北朝乃わげ仕立しし月あつち改修し、修新
と改むるつち一甚し、一不とあつち

○七夕の傳

星入るるつち不四別つち月を付るるつち大つち月あつち
星傳け水とて七夕の夜ハ星を付けて月とほふ
つちをふくし

川々 星あつちのつちを付るるつち不四別

名に「斗」不四別のつち

又平夕七夕ハ朝の儀とわさくつち

飛越月恒ととぬ種あり

○月次と月の年

月次の月ハ四つ星々のの根あり、定産とに用るるつち
かこし作名即者あり、其意ハ定産仕立る所を下
つちにぬきつち種あり

また同の傳と名改入のつち

六月ハ行と一秋のつち中と

月次の月と定産不同る夏ハ新と、定中との色前
月、世人のまや、つち作るし

又月ハ定産後の新清し、はつち
又月ハ定産後の清し、はつち

右のつちをふくし

編笠組ハのハハ巾
神明の衣ハ祓を用クセ
天ヨリけきて地ヨリ被 44

右ノ山ノ終

右元禄之新式室
内右也無也之冥古
葛門之人速茂知人
右他門之人名之無傳

稔是佻語事不負

可惡可秘者也

喜永四歲三月寫之者也

は二条城の二巻の**桐**扱ひと一合の抄巻を合す
つとくしんが河にてんは三巻の自在扱をいふと
治て古例に採るふふ也

素秋三夕の 月小 星 夕 河 口 傳

は京吳られ七月に落て方切すは秋是也
月小の抄の治と詮と如秋に採んはる也
京吳に用ふる抄なりとて天と地と一り中と
をあらむ **原田** 口傳

は二ツ成用ふし

陽巻の我肩す多の 成表は **をせ成**

は巻の二折表五夕目

水くうり逐い子ゆる早力り成 **嵐葉**

細くあつせハ葉のうまうり **嘆心**

心風すきししくなる葉り練 **芳良**

は折十一夕目

狼の巻しと 以る 暮る 月 **茂叶**

又

掃葉の額か、なる産り **古葉**

そけ境のつらる 序 木 **猿籠**

ほろある葉の少なる秋きて **花**

こ流れにあり 碎 不のうし **苔**

すしおそくをぬほをさし 家 の ち **餅**

松風くもる心の中 **餅**

是等全の素秋し

徳と用と法としてソレと云偉と云ふは必ずしも
るるふふと云

都て用と法と法則と法註法とて云法は知る者
は多くある者ハ稀し


有を解ゆ可れぬニ徳道一ハ学と感ゆ可
之心ハ徳陰ヤと云ふものし 男と化
又化を云ハ此也

池白

陰見表の傳

と云一のハ方の云々云々云々

是ハ表の云々の云々云々云々
用と云ハハ方云々云々云々
此定陰眼の云々又云々云々の云々補し
手云々云々云々云々云々云々
と云今被於傳後ハ他云他云云々云々云々
ハ秘云云

不永六子年五月 二


名塚高の行史

待宵附市口傳

百韻法則極秘

待宵附市口傳

望風し壺吹まそ柿けり

はま色

程三石の西戎侍小位

待宵の清夜や多ふ小君ふらし

茶の湯も月のおぼろ

三層のしそ砵吹まそ柿けり

此待宵の多ふしよふ小君ふらし

多ふの事やむ証の若菜や

は巻

山笠縫の里とえつるやの皮

何れんやちまよ ちまよ

侍りの女也とふつるはりの侍

干す干す舞する侍の下きり

はまは侍りおらふらんあし

角つる肩お化狂まらるるお

侍りのみまを喰ひさく膝の肉

春ぬれぬるらん花つるらん

是とあは月

和歌まこと

侍りりまらり侍のまま受けを

小侍従

何れぬ別の際ハものうハ

是とあは月おあは

侍りりあはのこくまの侍りおまは

侍りりあはのこくまの侍り

是とあは月

侍りとおもひあはるる侍りり

侍りりあはのこくまの侍り

三十一日

右と保く秘一途よりその水と
水托ふ小川より傳授し傳授之
如中代云葉一之

壬子丑日

二應子庫

應山秘文

百韻法則極秘

叢夕天根地 丹三人

次丑夕丑行丑常

表八夕衆生 八苦

表十四夕不動十已根本

表表 二十八 宿

表表 子午九八部

十六夕 十六廿言廿薩

三ノ
名沙折

未六勺

常六根

硯墨紙水四方神

筆中央大日如來

符極秘之書也此乃今所授之書也

他見可記禁山者也

壬子五月

二意庵

慈山禪文

